



国際化の最前線から



多文化共生はまちの活力

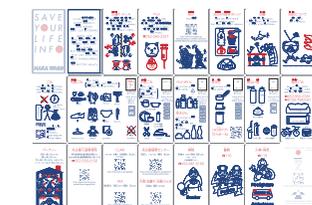
多文化共生マネージャー

外務省経済局政策課（名古屋市観光文化交流局から出向）

深尾 英司

私は2017年から名古屋市中区役所に在籍し、2018年7月まで地域のまちづくりを担当していた。中部地方最大の都市、名古屋市の外国人人口は2018年8月時点で8万人を超え、その国籍は約150か国に及ぶ。その中でも名古屋市中区は外国人の人口（9,500人）、その割合（約10%）とダントツに多い。着任してまず外国人の多さに驚き、いかに今まで外国人を見ていなかったかを自覚するとともに、地域課題として喫緊のものと理解した。しかし、多文化共生に触れたのは区役所に来てから。これまでは土木行政やシティプロモーションを担当しており、“外国人との生活に関する施策”には全く縁がなかった。これはいかんと多文化共生の勉強を手探りで始めていく中で出会ったのが、全国市町村国際文化研修所（JIAM）で開催される「多文化共生マネージャー養成コース」であった。参加する予算もない中であつたが、なんとか合計10日間の研修へと参加をし、外国人が地域で置かれている状況を総合的に学び、「多文化共生マネージャー」通称“タブマネ”の資格をいただいた。資格も嬉しかったが、何よりも全国の多文化共生を推進している同志とネットワークできたのが宝となった。今でも連絡をとりあい、情報交換をしているが、とにかく早く同窓会がやりたい。

ちょうど研修を受講するタイミングで外国人向けの生活ガイダンスパンフレットの作成に取り掛かっており、研修の中で受け取り手（外国人）のことを深く考えることができた



名古屋市中区多文化共生推進パンフレット「SAVE YOUR LIFE INFO」転入してきたばかりの外国人が新生活に困らないよう、生活情報や防災情報、観光情報について、7種類の言語で紹介

のが、出来を左右することとなった。クレアの多文化共生ツールライブラリーへも登録させていただいた。

さて、“タブマネ”になり今年4月からは「名古屋市中区多

文化共生行動計画（仮称）」の策定に取り掛かった。この計画により名古屋市中区役所が総合的に多文化共生を推進することができれば、これからもこの地域が外国人から選ばれ、この地域の大きな活力となることで、名古屋市の発展に寄与できると考えている。多文化共生が推進されることは、これからの自治体経営において、ますます重要な要素となってきたと感じている。明日もまた一歩多文化共生が推進できるよう研鑽に努めたい。

現在は名古屋市中区役所勤務ではなく、8月1日から名古屋市役所職員の身分を持ちながら、霞が関で働いている。後任へと計画策定のバトンを渡すことになってしまったが、もう名古屋市中区役所は多文化共生推進へとスタートを切っている。きっとこれから先陣を切って多文化共生を推進していってくれると信じている。ぜひ注目していただきたい。



「中区多文化共生推進講演会」で講演会主旨の説明を行う筆者

プロフィール

深尾 英司（ふかお えいじ）

愛知県名古屋市生まれ。2007年4月に名古屋市中区に入庁し、2017年4月から2018年7月まで名古屋市中区役所区政地域推進室で多文化共生に携わる。2018年1月にクレアから多文化共生マネージャーの認定を受け、外国人向けの生活ガイダンスパンフレットの作成や「名古屋市中区多文化共生行動計画（仮称）」の策定に尽力した。

2018年8月から現職。